

北谷町立北谷第二小学校 学校だより 第5号 令和5年9月27日(水)



# 北ニっ子

〒904-0103  
北谷町字桑江567-1

☎ 098 (936) 2511

発行者：北谷第二小学校  
校長 知念 哲也

北ニっぴー

学校目標：郷土に誇りを持ち 自らを切り拓く強い意志と 豊かな心を持つ子の育成

## 夏休み明けを楽しもう！～レク朝会～

長い夏休みが終わり、一学期後半がスタートしました。学校が始まることを心待ちにしている子がいれば、もう少し夏休みがあるといいなと感じている子など、子供たちの気持ちも様々です。そこで、夏休み明けの子供たちが楽しく学校生活をスタートできるように、8月29日(月)、31日(木)、9月4日(月)の3日間、運営委員会(児童会)主催の「レク朝会」を行いました。朝の短い時間ですが、低学年と高学年と一緒にゲームを楽しみながら、友達やお兄ちゃんお姉ちゃんとの関係づくりを行いました。



## 北谷町陸上競技大会

9月16日(土)には、北谷町陸上競技大会が4年ぶりに開催されました。本校からは、6年生の福地功弥さん、辺土名一樹さん、東円さん、漢那美心さんが代表で出場し、4選手とも素晴らしい走りを見せました。福地さんが男子の部1位、漢那さんが女子の部3位となりました。

## 北谷町教育員会視察

本校は今年度、試験的に水泳指導の民間委託を行っています。次年度の本格実施に向け、町教育委員会の視察が行われました。今後、教育委員会により、児童の泳力向上や安全面、児童の心情面など、多岐に渡って検証を進める予定です。

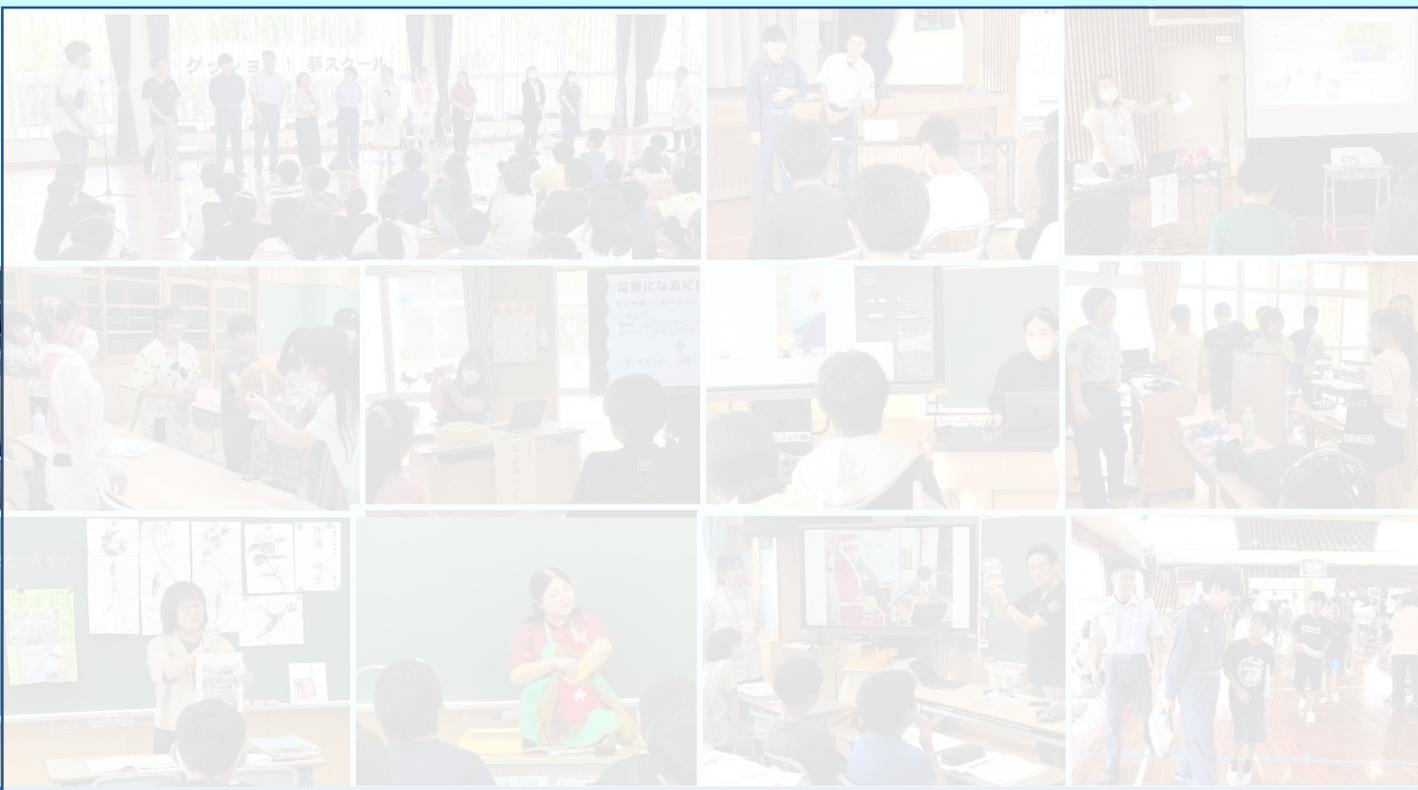


# グッジョブ!夢スクールの実施 ~キャリア教育の推進~

今年も6年生を対象に「グッジョブ!夢スクール」を実施しました。これは、総合的な学習の時間のキャリア教育として行っています。また、本校の学校目標や「コミュニティ・スクール」の取り組みの一環でもあります。

当日は、地域の職業人の方々を講師としてお招きし、仕事をする上で大切にしていることや“やりがい”や苦勞など、キャリア形成に関わる内容をお話していただきました。一人一人の6年生が将来への夢や希望を持ち、将来の“なりたい自分の”実現に向け後押しとなり、また、中学校進学への期待と意欲づけになることを期待しています。

- 講師のみなさん
- ニライ消防の又吉弥篤さん・伊志嶺司さん
  - 沖縄ブライダル学院の宇良恵美さん
  - HAIR lala+の伊波美里さん・玉木葉さん
  - 図書館司書の比嘉由似子さん
  - デザイター兼イラストレーターの末續河南衣さん
  - 沖縄警察署の伊波珠生さん
  - 元小学校教員の仲嶺明子さん
  - 保育士の宮城佳奈子さん
  - いきいき在宅クリニックの長野宏明さん



## 参加した児童の感想

- グッジョブ!夢スクールで警察官の仕事について学びました。警察官がつけているヘルメットや防護服は事件のときなどに使う大だてなど、身に付けて体験してみました。警察官が身に付けているものは全部かたくて重かったです。それだけ命ととりかわせの仕事をしているんだと感じました。私も、これから少しでも人助けができるように勇気を出して頑張っていきたいです。
- グッジョブを終えて、私が一番大切なことは「ありがとう」や「笑顔」をもらえるぐらいの努力をすることだと思いました。「もうわりだって」にげて後悔や笑顔が消えないように一生懸命やる姿がかっこいいと思います。見えないところで努力していることも私はまねたいです。

## スーパーマーケット見学(社会科)

9月13日(水)には、地域学習として3年生全員で地域のスーパー「ユニオン」で見学を行いました。バックヤードの様子や店内で見られる様々な工夫などを調べてい

ました。また、「ユニオン」さんの粋な計らいで、マイナス15℃の冷凍庫体験もできました。子供達は、事前に調べたい内容を準備し、当日は、お店の職員さんへ積極的に質問する姿も見られ、充実した学習になりました。



## 優勝! 北谷ドラゴンズ

8月12日(土)~13日(日)に宮古青年会議所主催の第43回JC杯少年野球大会が宮古島市行われました。決勝まで勝ち上がった北谷ドラゴンズは、大接戦の末、見事優勝しました。毎年宮古島で行われる大会ですが、今回、初めて優勝旗が海を渡り沖縄本島にやってきました。最後まで諦めずに戦い抜いた北谷ドラゴンズに「あっぱれ!」



## 準優勝! 女子バスケ部

7月29日(土)~8月16日(水)に沖縄県ミニバスケットボール夏季大会(ファミンユカップ)が行われ、女子バスケ部が見事準優勝しました。6年生から4年生までが選手として出場し、昨年度の雪辱を果たそうとチーム一丸となって戦いました。「今大会の課題はDフェイズです」と大会を振り替えて分析し、すでに次のアリーナカップに向け、課題克服に励んでいます。

